



## 10月は3R推進月間です

10月はリデュース・リユース・リサイクル推進月間(略称：3R推進月間)です。月間中は、環境省を含む3R関係府省、地方公共団体、関係団体で、3Rに関する様々な取り組み、行事が行われます。

### 3R推進月間とは?

廃棄物問題に関して、国民・事業者・行政がそれぞれの知識や経験を交換するとともに、参加者一人一人が自らのライフスタイルを見直す機会を提供することを通じ、「3R」(廃棄物等の発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle))の推進に関する理解を深め、循環型社会の形成に向けた取り組みをより一層推進することを目的とします。

### 3R推進月間における中部地方の取り組み

中部地方環境事務所では、「3R」の推進を幅広い層に訴えかけ、循環型社会の実現に向けた取り組みの一層の推進を図るため、長野県の地元プロ野球球団「信濃グランセローズ」とタイアップし、松本市野球場でのマイカップなどの配布、外野フェンスを利用した3Rに関する普及啓発活動を実施するほか、JR東日本長野駅中央通路における懸垂幕掲示及びパネル展示などを行います。

また、レジ袋の削減の取り組みが中部地方でも十分に進んでいますが、その後どんな活動を進めるべきなのか、市民団体なども手探りの状態です。つまり、「ポストレジ袋」を考えていくことが必要となっているのです。そこで、中部地方環境事務所主催のイベントとして、福井県内で「ポストレジ袋を考えるシンポジウム」を行います。対象は、NPO、消費者団体などを中心に広く一般市民とし、シンポジウムには学識経験者などの有識者をお招きします。



## 漂着ごみを減らしましょう

今、海岸に流れ着いたごみにより、私たちの海やそこに暮らす生き物たちに様々な影響が及んでいます。かけがえのない海を守るために、私たちは何をすればいいのでしょうか?

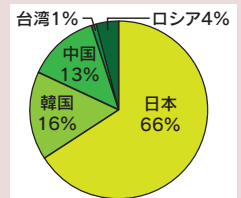
### 漂着ごみとは?

海に流れ込んだプラスチックなどのごみは、海岸に流れ着くものもあれば、海底に堆積するものもあります。これらはなかなか分解されずにたまっていく一方、波や紫外線により劣化して細かい破片に変わっていきます。このようなごみの回収・処理には大変な手間とお金がかかります。



### 海を汚していたのは、私たちのごみです

環境省のモデル調査によると、ほとんどの海岸に見られるごみの主な発生源は国内であることが明らかになりました。例えば、漂着ごみの代表にペットボトルがありますが、福井県坂井市地域では、全体の66%を国内のものが占めています(円グラフ参照)。



### 漂着ごみを減らすことは、あなたにもできます

漂着ごみには、屋外でポイ捨てされたとみられるものが多く見られます。「ごみはごみ箱へ」。一人一人の小さな取り組みが、きれいな海を取り戻します。

## 食品残さの再生利用を考える (中部地方における地域循環圏の構築に向けて)

中部地方環境事務所では、中部地方における地域循環圏の構築に向け、昨年度より検討を開始しました。昨年度は、その実施に先立って、岐阜、愛知、三重の東海3県における食品残さを中心としたリサイクルループの現状や、その課題などについての基礎的な情報を把握・整理することを目的に、食品残さの再生利用に関する概況の調査を行いました。その結果、以下の現状と課題が明らかになりました。

- ①スーパーやコンビニなどの小売業、レストランなどの飲食店から排出される事業系一般廃棄物である食品残さは、食品メーカーなどから排出される産業廃棄物に比べ再生利用が難しいこと
- ②三重県では、農業の視点から食品残さをとらえる傾向が強く、小さなループを確実に回すことに力が置かれているが、愛知県では大量に発生する食品残さをいかに経済的に迅速に処理するかに力が置かれていること
- ③リサイクルループの形成にあたって、排出事業者と再生利用事業者及び農業生産者をつなぎ、お互いの欠けている部分を補い合う方法や仕組みを提言できるコーディネーターが不足していること

などです。

これらを踏まえ、今年度以降さらに踏み込んだ検討を行うため、より詳細な調査として、

- ①登録再生利用事業者などに関する調査
- ②対象区域外における調査
- ③有機野菜などに関する実態調査
- ④中規模小売店の意向調査

を行うとともに、関係機関などからなる協議会を設置し、今後予定しているモデル事業の実施に向けた検討も行うこととしています。

